

産総研と地域企業

産業振興で連携

エネ使用から「回収」に軸足

アツミテック

環境変化対応

アツミテック（浜松市中区）は自動車部品製造会社。自動車産業を取り巻く環境は刻々と変化しており、燃料電池車や電気自動車の時代が現実になりつつある。こうした環境変化に対応し、現行の部品群から将来の部品群

調光薄膜

当社と産業技術総合研究所との関係は2004年にさかのぼる。当時の部品を探索するために産総研中部センターを訪問し「調光薄膜」に出合った。この酸化物形燃料電池（SOFC）の研究について、現在、商品化を目指した新たな研究段階に入っている。三つのテーマに関連する。現時は燃料電池の検査技術として、これら三つのテーマ、特に熱電変換とSOFCは産総研のシニア開発機構（NEDO）

次世代を担う商品を目指して



製造方法については昨年度から新たに新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）事業による研究開発を開始。熱電変換について、産総研は科学技術振興機構（JST）の支援で発電性能の向上と量産技術の開発を継続している。調光薄膜に関して、SOFCの「水素可視化シート」「水素チェックシート」という名称で一般販売も行っている。産総研との関係は当然。

テーマ別連携

社の新事業の柱として、廃熱回収技術、水素安全技術について、産総研九州センター、熱た安全技術、水素貯蔵電変換とSOFCを組み合わせたシナジー発電技術は産総研中部センター、製造技術は産総研つくばセンターと、それぞれ場所にとどまらず、産総研の事業所を越えて連携している。（アツミテック開発部長・内山直樹）（木曜日に掲載）

産総研構造材料
研究部門首席研究員

吉村 和記

一言メッセージ

アツミテックは産総研で開発した水素燃料電池の製品化を期待している。高エネルギー密度の燃料電池は、省エネと環境負荷低減に貢献する。産総研の技術力と、アツミテックの製品化能力を組み合わせ、新製品を開発し、社会に貢献したい。